

会 議 録

会議の名称	山形市介護人材確保推進協議会	
日 時	令和4年10月20日（木）午後3時から	
場 所	男女共同参画センター 視聴覚室	
議 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年度生産性向上・業務改善の取り組みについて</li> <li>・ 介護の職業体験イベントについて</li> <li>・ 山形市居住支援協議会の設置に向けた体制等について</li> <li>・ 令和4年度の取組状況及び令和5年度に向けた意見等について</li> <li>・ 各団体・機関からの情報提供について</li> </ul>	
出 席 者	峯田幸悦会長、大島扶美委員、漆山弘幸委員、志田信也委員、岩城郷子委員、佐藤一委員、山川一枝委員、斎藤幸子委員、海藤美紀委員、高橋俊章委員、椿野幸子副会長（松木信委員代理出席）、荒井晋一委員、菊地一穂委員、今崎絵理委員、鈴木剛委員、石垣博之委員、柳生めぐみ委員、森谷伊都子課長補佐（佐藤敦宏委員代理）、高橋茂弥委員、植木憲司委員、黒原裕一課長補佐（細谷直樹委員代理出席）、佐藤雅俊委員（欠席：高橋秀治委員、安部康典委員）	
傍聴者の数	0人	
審 議 経 過	下記のとおり	
提出資料	資料 1	令和4年度 生産性向上・業務改善の取り組みについて
	参考資料 1	地方創生推進に係る包括連携に関する協定の締結について
	資料 2	介護の職業体験イベントについて
	参考資料 2-1	介護の職業体験イベントアンケート結果について
	参考資料 2-2	山形県福祉人材センターニュースレター
	資料 3	山形市居住支援協議会の設置に向けた体制等について
	資料 4	令和4年度の取組状況及び令和5年度に向けた意見等について
	参考資料 4	介護現場の革新に向けた総合的な取組（令和3年度～令和7年度）（令和4年度版）
	資料 5	外国人向け防災体験会報告書
	参考資料 5	防災体験会 チラシ
	委員提出資料 1	・ 最近の雇用情勢について（令和4年8月）（山形労働局）
	委員提出資料 2	・ 人材不足分野 求人・求職バランスシート（山形公共職業安定所（ハローワーク山形））
	委員提出資料 3	・ 『山形県介護職員サポートプログラム』の推進について（山形県健康福祉部高齢者支援課）
	委員提出資料	・ 公益社団法人山形市シルバー人材センター広報紙（公益社団法人山形市シルバー人材センター）

## 【審議経過】

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 報 告

- (1) 令和4年度生産性向上・業務改善の取り組みについて
- (2) 介護の職業体験イベントについて
- (3) 山形市居住支援協議会の設置に向けた体制等について

**事務局** ー (1) 令和4年度生産性向上・業務改善の取り組みについて、資料1、参考資料1に沿って説明  
ー (2) 介護の職業体験イベントについて、資料2、参考資料2-1～2に沿って説明  
ー (3) 山形市居住支援協議会の設置に向けた体制等について、資料3に沿って説明  
ー説明後、介護の職業体験イベントについての動画（ニュース）を上映

**議 長** (2) 介護の職業体験イベントについて、ご質問や次年度に向けた改善点などお気づきの点、ご意見等ないか。

**委 員** イベント当日は生徒二名と参加させていただいた。  
会場をただ通るだけの方もいたが、足を止めてイベントを見てくれる方も多く、良いイベントになったのではないかと思った。介護体験については、中高生の参加も多く、また、施設職員の方も丁寧に教えて下さったのが良かった。  
イベントに参加した人はとても楽しそうで、介護に関心を持ってくれたのではないかと思う。こうしたイベントを繰り返し行っていくことが、より多くの人に、介護に興味を持ってもらうきっかけになるのではないかと思う。

**委 員** 当日は教員、生徒二名で学校紹介ブースに参加させていただいた。  
イベントは、中高生に介護の仕事を理解してもらうとともに、介護について学ぶための進路について知ってもらう良い機会となったと思う。  
近年は定員割れが続いているが、こうしたイベントが介護職養成学校について知ってもらうことにつながると思うので、今後もこのような機会があれば参加させていただき、学校のPRをさせていただければと思う。

**委 員** 当日は教員、生徒二名で参加させていただいた。学生はイベントの参加に対し、「非常に良い経験ができた」と言っていた。  
今後、中高生に介護の現場に興味を持ってもらわないと、将来の仕事の選択肢の一つとしてイメージしてもらえないようにならないと、介護福祉士の養成や就職につながらないと思うので、このようなイベントの開催に対し感謝したい。  
今後も今回のイベントのような取り組みを積極的に行うことで、介護に興味を持つ山形県内の

若者が増えるのではないかと思う。

**委員** 今回のイベントは、たくさんの子供たちに介護について知ってもらい良い機会になったと思う。アンケート結果を拝見すると、会場に関して、もっと広いところであると良いのではないというご意見があったが、個人的には、会場をつくってしまうと目的を持った人しかイベントに来ないのではないかと思うので、今回のように、たまたま通りかかった人でも参加しやすいような場所でイベントを開催できたのは良いことなのではないかと思う。

**委員** 当協議会からは3事業所の職員計四名が参加した。普段介護について見聞きすることの少ない人が、介護の体験などをできるのはいいことだと思う。今後も定期的を開催することだったので、こうしたイベントを是非開催していただきたい。また会場についても、今回のように、人通りが多く、不特定多数の方の目にふれる場所での開催がいいと思う。

**議長** 委員からのご指摘のとおり、目的をもって会場を設置することは一見すると良いように見えるが集客は難しい。なので、今回のイベントのように、人通りの多いところで開催するというのは良いアイデアだと思った。

#### 4. 協 議

(1) 令和4年度の取組状況及び令和5年度に向けた意見等について

**事務局** ー「介護人材の確保につながる場の創出」、「『介護人材の確保・定着』の取組」について、資料4、5、参考資料4、5に沿って説明

**議長** 南沼原小学校で認知症サポーター養成講座を開催したということであるが、学校において他にも介護に関連する取組等行ってるものがあれば教えていただきたい。

**委員** 昨年度まで勤めていた第一小学校では、市社協のご協力のもと高齢者の体験を行ったり、敬老会の方と触れ合う機会を設けている。先ほど報告にあった南沼原小学校での活動も踏まえ、今後、他の学校においてもこうした活動が行われるようになればと思う。現在、一人一台タブレットを持っており、生徒自身が主体的に学ぶという教育が学校で始まっている。こうした状況も踏まえると、イベントへの参加については、介護に興味のある生徒が情報収集し参加するというかたちになるのではないかと思う。また、小・中学校の総合的な学習の時間のなかに「福祉」という分野がある。数十年続いている授業であることも踏まえると、福祉について積極的に調べ、学んでいる学生は多いのではないかと思う。

**議長** 市社協で行っている若年層に対する取組について教えていただきたい。

**委員** 市社協で行っている若年層に対する取り組みについては、介護職に対する理解を深めるものと

いうよりは、施設等でのボランティアへの協力といったかたちが多いので、職業の先を見据えたものはあまり行っていなかった。

しかし、最近介護に関するさまざまなイベントが開催されているのを踏まえ、市社協においても介護職の先を見据えたイベントの開催についても考えたいと思っている。

**委員** 人材不足の現場で感じていることだが、中・高校生ではなく、より小さいとき（幼少期）から福祉の現場に出入りする機会を増やすことが大事だと思っている。幼稚園、小学生のときからおじいちゃん、おばあちゃんに親しみを持ってもらい、介護に興味を持ってもらいたいと思う。そのために、施設側にも幼少期からの福祉（介護）へのふれあいにご協力いただければと思う。介護人材が不足しているからという理由で介護職を押し付けるようなことをせず、小さいときから介護に興味を持ってもらえることが理想だと考えているので、その点に関してご協力願いたい。

**議長** 以前、学校教育関係者から、小学3年生までの経験がその後の職業に関する意識形成に大きく影響するという話を聞いたことがあったので、先ほどのご意見にはなるほどと思った。ほかにご意見等はないか。

**委員** ・幼少期から介護を身近に感じてもらうことはとても大切だと思う。例えば、林業に就いている人に「なぜその仕事をしているのか」と聞いたとき、「林業がそばにあったから」と答えた。同様に、介護職に就こうと思ったきっかけも些細なことで良いのではないかと思う。

・「介護」というと、話のほとんどが施設を対象としていることが多いが、支援が必要なのは在宅の分野も同じである。先日、NHKでホームヘルパーに関する特集が放送されていたが、そのなかでホームヘルパーの平均年齢が65歳だと言われていた。また、コロナ禍でデイもショートも受入が困難となり在宅での介護をせざるを得ない状況になったが、これにより認知症の悪化、筋力低下が起こってしまったことが話題となっていた。本来であれば在宅であっても適切なケアができればこうしたことは起こらないのだが、関係者に話を聞くと、支援にあたりコロナ感染対策等をしなければならないが、国からの支援がない為それらをすべて自前でしなければならず、訪問を断らざるを得ない状況に陥っているということであった。こうした現状があることを認識していただいたうえで、在宅に関する支援にも注力していただきたいと思っている。

また、ホームヘルパーに関して、現在山形県には協会が無い為、研修会をすることができない。ホームヘルパーについて学ぶ機会がないからホームヘルパーの仕事はできないと言われたこともあったため、ホームヘルパーの人材確保のためにも、事業所ごとに点と点になってしまっているところを線でつなぎ、研修会等を行うことで在宅において質の高いサービスを提供できるようにして頂きたいと思っている。

・会長の挨拶にもあった外国人介護人材に関連して、介護福祉士会では、外国人介護人材の受入担当者を対象にした講習会を開催する予定だが、現時点で申し込みが0である。ご興味がありましたらぜひご参加いただきたい。

**議長** 続いて、『生産性向上』の取組について、事務局より説明をお願いします。

事務局 ー 『生産性向上』の取組』について、資料4、参考資料4に沿って説明

議長 事務局より説明があった件について、ご意見ご質問等はないか。

委員 文書量削減に関しては十数年前から言われていたが実現していないと感じる。文書量削減に関して、山形市でもできることがあればぜひお願いしたい。

議長 文書量削減に関して市が行っている取組があれば教えていただきたい。

事務局 委員からのご意見の通り、コロナ禍ということもあり事業所等には照会等をお願いすることが増えており、負担をかけてしまっている。そのため、様式の見直しや電子申請化について厚生労働省で準備を進めているところである。また、既存の介護サービス情報公表システムを用いて様々な手続き、申請ができるように進めており、山形市はモデル事業に申し込み、実施に向けて作業をしている。できる範囲からの電子化ということで、山形市では、現時点で、更新申請に関して電子での受付を行っている。他には、山形市内の事業所でケアプランデータ連携システムのパイロット運用を実施予定である。  
山形市では今後も文書量削減に関して様々な情報を得ながら、厚生労働省と協議し先行的に事業に取り組んでいきたいと思う。

委員 ・先ほどホームヘルパーの平均年齢について言及があったが、ケアマネも平均年齢が上がっており、8050問題にとどまらず、9060問題となっている。また、両親を介護しなければならない場合は909060問題というのも起こっているのが現状である。  
施設入所に関しても、2人入所となると金銭的な問題があり難しいため、今後はいかにして在宅での介護を支援するかが課題となってくる。ケアマネとしては、退職した60代男性の第二の職場として介護職が選択肢となればと思っている。在宅での介護が増えるなかで、介護が職場や学校などにおいて身近な存在となれば、介護職というものもより身近になるのではないかと  
思う。  
・ICTに関しては不慣れな部分が多いが、市からのアドバイス等を受け、ケアマネも使いこなせるようになりたいと思うのでご協力願いたい。

委員 高齢者の雇用促進としてやまがた生涯現役促進地域連携事業協議会との連携について触れられていたが、この協議会にはシルバー人材センターも参加している。活動についてPRを行っているが人がなかなか集まらないというのが現状である。今後、より事業が活発になるようにご協力願いたい。  
シルバー人材センターの会員の平均年齢は73、74歳であり、身体介護などは難しいが、介護分野で可能な部分に関してぜひご活用頂きたいと思う。

委員 ・病院で働いていると、自宅に帰りたいという患者が多い一方で、家族に介護力が無いことから施設での介護を選択する方が多いのを目の当たりにする。また、施設入所に関して経済的な

問題も話題となる。本人の希望を叶えるためにも、在宅での介護に対してサポートを充実させることが必要だと考える。

・ICT・ロボットの活用について、山形県作業療法士会では、医療・福祉分野におけるICT・ロボットの活用による負担軽減に関する調査を行った。ある事業所での調査では、職員の負担が大きいのは入浴介助、トイレ介助であること、腰痛を持つ職員が多く、今後この仕事を続けられるかといった健康面に関する不安もあることが分かった。こうした問題を解決するために、マッスルスーツの導入も一つの方法であると思う。実際に体験をしたが、十分の一の労力で作業ができた。マッスルスーツを導入したある病院でのアンケート調査では、作業の負担軽減、腰痛の軽減に効果があったことが分かっている。

先に述べたような機器の導入にあたっては選定等が必要なため難しい部分があると思うので、横のつながりを活かして機器の紹介等を行うことで情報共有できれば良いのではないかと思う。

**委員** ・機器の活用による職員の負担軽減に関連して、自動寝返り支援ベッドについて紹介させていただく。寝返り介助は職員の負担が大きだけでなく、介護を受ける側にとってもストレスの多いものである。自動寝返り支援ベッドは、PCで好みの角度に変えてくれる。介護保険適用となっているので、施設や在宅での介護でぜひご活用いただきたい。

・先ほど、介護関連職の高齢化について指摘があったが、高齢化がすすむ現代においては、元気な高齢者が働ける環境づくりが大切になってくると思う。働き手が高齢者であってもいい世の中になれば良いと思う。

**議長** 機器の紹介等について、山形市で行うことは可能なのか。  
機器の使い方等についても知る機会があれば利用が増えるのではないか。

**事務局** 介護ロボットに関して、県において機器の購入に対する補助事業があるが、機器の展示や紹介に関する機会については市においては現時点ではない。病院に関しては最新の医療機器の展示会があるので、介護ロボットの分野でも展示会を開催できるかどうか、今後メーカーや販売代理店等と話し合い検討したいと思う。

**議長** では、令和4年度の取組については引き続き進めていただき、ただいま発言のあった意見等を参考に、令和5年度の取組を検討するというところで、ご承認いただけるということによろしいか。

－承認－

## 5. 各団体・機関からの情報提供について

**議長** 持参いただいた資料等について各委員より報告や説明をいただきたい。

**委員** (山形労働局より委員提出資料1に基づき説明)

P1の「最近の雇用情勢について」では、景気動向の指標の一つである有効求人倍率について示しているが、8月末現在において、山形県の有効求人倍率は1.65であり、前月より0.04ポイ

ント増となり、8ヶ月連続で上昇している。また、全国平均が1.32で、山形県が上回っている状況である。また、「新規求人の状況」について、8月末現在の医療・福祉分野の求人は1,492人であり、月により多少の増減はあるものの増加傾向にあること言える。また、医療・福祉分野の求人は卸・小売業(1,976人)、製造業(1,822人)に次ぐ多さである。

P3の「新規高校卒業者の求人」について、製造業、建築業での求人が多い。また、8月末現在の有効求人倍率は3.75である。高校卒業者の就職希望者が減少している一方で、求人は増加している。

P5の「求人・求職バランスシート」について、介護関係の有効求人倍率をみると、「施設介護職員」は3.09、「訪問介護員」は9.42と非常に高い数値である。なお、この数値は県内のハローワークの平均である。

P6からは介護人材確保の取組について紹介する。介護分野は人材確保対策における人手不足分野に位置づけられている。そうした状況を踏まえ、山形労働局では人材確保対策推進協議会の開催や、11月11日の介護の日になんで、11月に福祉のしごと就職フェアを県内4カ所で開催する。P7に過去3年間の実施状況を記載したのでご覧いただきたい。また、P7下段では、介護訓練(公的職業訓練)の実施状況を記載しているので、併せてご確認いただきたい。山形労働局では、ハローワークや関係機関と連携し、介護分野の人材確保に向けて尽力する所存なので、引き続きご協力願いたい。

**委員** (ハローワーク山形より委員提出資料2に基づき説明)

P1の求人・求職バランスシートは、ハローワーク山形における数値であることをご確認いただきたい。先ほど説明のあった県の平均値と同様、介護関係の「施設介護員」、「訪問介護員」の有効求人倍率は非常に高いことが分かる。

P2は、求職者、求人者にお渡ししている「人材確保・就職支援コーナー」の案内に関する資料である。当コーナーでは、求職者・求人者双方の支援を行っており、事業所訪問による求人の情報収集や、求人説明会・施設見学会を開催している。また、11月8日(火)に山形ビックウィングにて「福祉のしごとフェア」を開催する。山形市をはじめ、村山地域の介護福祉施設74社が参加し、個別面談や職場PRタイムなど各種イベントを行う。

今後も介護人材確保の推進のためさまざまな取組を行っていくので、ご協力願いたい。

**委員** (県高齢者支援課より委員提出資料3に基づき説明)

山形県における今年度の介護人材確保に関する取組について説明させていただく。県では、P1の「施策の展開」に挙げている5つの柱をベースに、介護人材の育成、確保、定着、離職防止のための取組を行っている。

今年度からの新規事業として、P2のとおり、一般社団法人KAiGO PRiDEと介護職員のプロの技術と内面を実感できる動画を作成した。また、P3に示しているように、広報活動の新規事業として、小学生向けのおしごと体験イベント「キッズタウンやまがた」にて、介護福祉士、栄養士、理学・作業療法士のブースを設置した。イベントには187人が来場した。先ほど報告にあった山形市の介護の職業体験イベントが中高生向けだということで、うまくすみ分けができていないのではないかと思います。

P7の「やまがた介護事業者認証評価制度」は、令和3年度から運用を開始した。職場における

勤務・環境改善に対し評価を行うもので、一定の水準を満たした事業者には認証を付与している。現在8法人が認証を取得している。

P9の「やまがた KAiGO PRiDE キャンペーン」では、学生等若い世代やその親、介護職員をターゲットに、介護の魅力を知ってもらうことを目的とし、動画を活用した介護の魅力発信事業を行う。動画上映やキャンペーンに関連して講座にご協力いただける場合は、ぜひお声がけいただきたい。なお、P11は、県と KAiGO PRiDE で作成した動画に関するプレスリリースである。ぜひご覧いただきたい。

山形県では、今後も介護人材確保のために様々な事業を行っていくので、ご協力願いたい。

**委員** (山形市シルバー人材センターより委員提出資料に基づき説明)

市シルバー人材センターでは、高齢者の就労機会と生きがいをつくることを目的として事業を行っており、駐車場管理、公園等の清掃、ポスティング、障子貼りなどの仕事への派遣を行っている。また、低料金で軽作業を行うらくらく応援隊といった独自事業もある。介護分野に関しては、施設での清掃や洗濯、調理業務や、宿直、職員の補助などの仕事が可能なので、ぜひご相談いただければと思う。

また、ハローワーク山形と協力し月1回程度就職相談会を実施している。

市との協力という点では、広報やまがたに市シルバー人材センターの広告を掲載させていただいた。今後も掲載予定なので、ぜひご覧いただきたい。

元気な高齢者の力を社会に還元するための一つの手段として今後もPRをしていく予定である。

**委員** (東北文教大学より口頭で説明)

令和4年度の取組について説明させていただく。

・オープンキャンパスについて、7月14日、24日、31日、8月6日の4日間開催し、合計で53名の学生が参加した。ほとんどが県内の高校生であった。

・介護に興味のある高校生を対象に、介護の基本的技術の体験を行う介護セミナーを実施している。セミナーをとおして介護職に対し明確な目的意識を持ってもらいたいと考えている。8月5日に実施し、申し込み時点では定員25名に対し25名の申し込みがあったが、大雨や新型コロナウイルスの拡大の影響で、当日参加したのは5校から10名であった。申し込みから人数が減ってしまったものの、参加した学生からは「楽しかった」というご意見をいただいた。

・先ほどの事務局からの説明にもあったが、学生2名とともに10月1日開催の介護の就職体験イベントに参加させていただいた。

・毎年ご依頼があった学校へ出前授業を行っている。学校での総合学習の一環としての依頼が多く、今年度は、7月6日に寒河江市立西根小学校の6年生61名、10月7日に山形市立南山形小学校の3年生62名を対象に出前授業を行った。この取組が介護に興味を持つ学生の確保につながればと思っている。

**議長** この他、委員より報告等あればお願いしたい。

**委員** 報告にあったように、現在、介護の体験イベントの開催等介護に興味を持ってもらうための



様々な取組が行われているが、介護職員養成校の定員割れ等介護人材の確保に関して課題が残ってしまうのであれば、取組内容に関する見直しが必要だと考える。話が飛躍してしまうが、人材が不足している事業所に就職することを条件に補助金を交付するといった事業を行うことも方法の一つなのではないかと思った。

また、現在、科学的介護（介護を科学する）と言われることがあるが、介護職員がいかに効率的に介護ができるか、介護を受ける方がいかに自分の力で動くことができるかということを考える機会（勉強会の開催など）を設ければ、介護現場により活気が生まれるのではないかと思う。

**委員** 職場での経験を踏まえて何点か説明させていただく。

・先ほど、介護ロボットの展示会の開催について話があったが、県の補助金の事業を活用した事業所の活動報告がホームページ掲載されるので、県内の介護施設で導入されている介護ロボットの情報を得られると思う。また、介護ロボットは職員の負担軽減につながる一方で、タイムパフォーマンスが悪いという問題もある。メリット、デメリットを踏まえたうえで現場での導入後のイメージを固めないと、使用しなくなるという問題が発生すると思う。

・介護現場での若者の参入についてだが、この点に関して今後も積極的に事業をすすめていきたいと思う。実際に、現場には未経験の50歳の職員がいるが、キャリアパスに苦労しており、それに伴い施設の弱体化が起こってしまっていると感じる。また、もともと介護に興味のある学生は進んで就職のために行動をするので、若い世代の人材確保においては、進路を決めかねている人がいかに介護に興味を持つかが重要なのではないかと思う。そうした点を踏まえると、10月1日開催の介護の就職体験イベントは良いものだと思う。

・離職防止のため、ハラスメント対策研修はぜひ行っていただきたい。

**委員** ・訪問看護分野では、多くの若者が起業をしている。そうしたところに就職するのはほとんどが若者である。また、業務においてICTをフル活用しており、活気のある印象だ。こうした動きが県内においても増えていると感じる。また、若者の雇用の面に関して、現在、職場の雰囲気などといった就職に関する情報をSNSで発信、収集しているという。こうした現状を踏まえたうえで、職業に対する若者の興味・関心を把握することが大切なのではないかと思う。

・業務におけるICTの活用についてだが、若い職員の意見を参考に導入をしている。慣れるまでは大変だが、使いこなせるようになると業務の効率化につながっていると実感する。ICT関係に限らず、業務において、若い世代の意見を積極的に聞いて活かすことが大事なのではないかと思う。

**委員** 普段現場の業務に携わっているが、介護の仕事は、医療に関することや日本の風習など様々なことを学べる職業だと思っている。介護人材確保についてはこうした介護職の良さ、楽しさをいかに伝えていくかが大切になると思う。

**委員** 介護労働安定センターで行っている介護労働講習には、24名の方が参加している。例年より受講者数が減少しているものの、志が高い方が多い。この講習を受講した方の9割近くが介護施設等に就職している。

今後も介護人材不足解消のために尽力する所存なので、ご協力願いたい。

6. その他

**事務局** 次回の会議の開催時期は議長に相談させていただき、またご連絡させていただく。

7. 閉会